

郵
報知新聞
便 錦画第二号

明治八年六月十九日夜大阪南錦屋町田村
平次太老母よりあるが昔と手ある
孫子のついでを連と西長瀬札のついで
水申に被身せりさあ破道する恵
美浪丸の永主の被身幸ひ救世せ
らと一子せり其原を問ふ孫の
ついでに下指ありを父か赤せり
ついで老母の可愛さついで長を怨む
生あから可責の罪を見んより
と孫を連と西寺町柳谷観音後
世を願ひ親類由西活法上方より益
及ませりが離るる此と情に至る
ちかぬる念せぬ既に世かを
引出し得く故人命に送まるところ
あやふさふさの心



錦画
本
内

